

令和2年8月31日
農推第1189-5号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

蒸し暑い日が続きます。作業時に熱中症にならないよう十分ご注意ください。

特に発生に注意

水稲

トビイロウンカ

- ・毎年6月頃に中国大陸から飛来し、その後第2世代、第3世代が繁殖、出穂期以降に多発すると坪枯れ症状が生じます。
- ・発生が見られたら、スタークル(アルパリン)顆粒水溶剤、トレボン乳剤などを散布しましょう。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・幼虫は、幹や枝から中華麺〜うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。
- ・フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとりましょう。ネットは高さ2m程度まで2重にしっかりと巻きましょう。

果樹類全般

果樹カメムシ類

- ・今年度は全国的に発生が多く、府内でも一部地域では平年より発生が多くなっています。
- ・園内で発生を認めたら、アディオン乳剤(かんきつ、かきなど)、スタークル(アルパリン)顆粒水溶剤(かんきつ、かきなど)などを散布しましょう。

野菜類

コナガ

- ・主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害します。
- ・発生を認めたら、アクセルフロアブル(非結球あぶらな科葉菜類など)、ディアナSC(非結球あぶらな科葉菜類など)を散布しましょう。



トビイロウンカ成虫*



クビアカツヤカミキリのフラス



コナガ成虫※

次回の情報は9月末にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

水稻

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に発病が助長される。

防除のポイント

- ◆いもち病の常発ほ場では、発生前にオリゼメート粒剤などを散布する。
- ◆発生を認めたらブラシフロアブルなどを散布する。

紋枯病



紋枯病発病株

特徴

- ◆高温多湿時に多発する。
- ◆窒素過多、密植、分けつ多で発病が助長される。

防除のポイント

- ◆過繁茂にならないようにする。
- ◆穂ばらみ期から出穂期にかけてリンパー粒剤を散布する。
- ◆発生を認めたらバリダシン液剤などを散布する。

セジロウンカ



セジロウンカ幼虫※

特徴

- ◆毎年6月頃に中国大陸から飛来し、急激に密度が高まる恐れがあるので、こまめに発生動向を注意する。

防除のポイント

- ◆トレボン粒剤、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤、アプロード水和剤 (幼虫のみ)などを散布する。

トビイロウンカ



トビイロウンカによる坪枯れ症状

特徴

- ◆毎年6月頃に中国大陸から飛来し、その後第2世代、第3世代が繁殖し、出穂期以降に多発すると坪枯れ症状が生じる。

防除のポイント

- ◆早期防除が重要であるため、早期発見に努める。
- ◆発生が見られたら、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤、トレボン乳剤などを散布する。

水稻

斑点米カメムシ類



斑点米カメムシ
(アカスジカスミカメ)

特徴

- ◆ 畦畔のイネ科雑草などから飛来する。

防除のポイント

- ◆ 出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、実施しない。
- ◆ トレボン乳剤などを散布する。

スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)

生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」をご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

果樹

ぶどう

べと病

べと病の特徴および防除方法については、下記リンク先の
7月14日発表「露地ぶどう べと病に注意！」をご参照ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0207beto.pdf>

晩腐病



被害果※

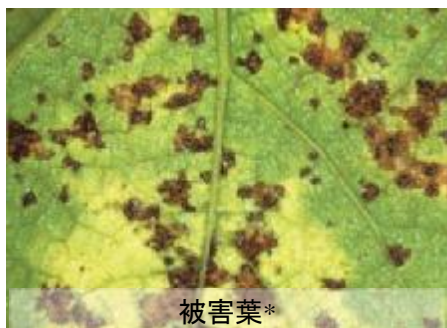
特徴

- ◆糖度が高くなった収穫間際の果実に発生しやすい。
- ◆デラウエアに発生が多く、病原菌は結果母枝、巻きひげなどで越冬する。

防除のポイント

- ◆発生が多かった園では、収穫後にICボルドー66Dなどを散布する。

褐斑病



被害葉*

特徴

- ◆米国系品種に弱い品種が多く、デラウエア、キャンベルアーリーに発生が多い。
- ◆多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。

防除のポイント

- ◆被害葉は園外に持ち出し処分する。
- ◆発生を認めたら、フルーツセイバー、オンリーワンフロアブル、ホライズンドライフロアブルなどを散布する。

ブドウトラカミキリ



成虫※

特徴

- ◆幼虫が枝の内部に食い入り、被害を受けた部分は黒くなる。虫のいる枝の先の新梢はしおれて枯れる。
- ◆成虫発生時期は8月中旬～10月上旬、幼虫が枝内に食い入るのは10月上中旬。

防除のポイント

- ◆被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆収穫後の成虫発生時期に、スミチオン乳剤、モスピラン顆粒水溶剤（収穫後秋期）などを散布する。

果樹

もも

せん孔細菌病

せん孔細菌病の特徴および防除方法については、下記リンク先の
3月25日発表の防除情報「せん孔細菌病(もも)の発生に注意」をご確認ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0203%20momo%20senkou.pdf>

温州みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆降雨が多くなると発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤などを予防的に散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
- ※かんきつ（みかんを除く）では3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

ミカンハダニ



被害葉*

特徴

- ◆葉や果実に寄生して吸汁し、吸われた部分は色が抜けて白くなる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

ミカンサビダニ



被害果※

特徴

- ◆果実に寄生して吸汁し、傷ついた果皮はかさぶた状になって、果実全体が褐色または灰色に変色する。
- ◆気温が高く、降水量が少ないと発生が多い。

防除のポイント

- ◆発生の多い園ではハダニ類防除の際に、ミカンサビダニへ登録のある農薬を使用する。
- ◆コロマイト水和剤、ダニエモンフロアブル、サンマイト水和剤などを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシ*

特徴

- ◆ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)やヤノネカイガラムシなどが加害する。
- ◆天敵の寄生蜂を殺してしまう農薬を連用することで、発生が多くなることもある。

防除のポイント

- ◆幼虫発生期に**アプロードフロアブル(幼虫のみ)**、**スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤**、**コルト顆粒水和剤**などを散布する。
- ◆冬期のマシン油乳剤の散布が効果的である。

いちじく

疫病



被害果*

特徴

- ◆果実に緑色水浸状斑点ができ、やがて暗紫色、円型でくぼんだ病斑になり、白色のカビで覆われる。
- ◆秋の長雨の時期に発生が多い。

防除のポイント

- ◆雨水の跳ね上がりなどで伝染するので、敷わらやポリマルチ等により雨滴のはね上がりを防ぐ。
- ◆傘かけ資材を設置する。
- ◆**ランマンフロアブル**、**レーバスフロアブル**、**アミスター10フロアブル**などを散布する。

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法については、下記リンク先の5月13日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujiyouhou/R0205kubiaka.pdf>

果樹類全般

果樹カメムシ類

果樹カメムシ類の特徴および防除方法については、下記リンク先の6月3日発表の防除情報「果樹カメムシ類に注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujiyouhou/R0206kamemushi.pdf>

なす

褐紋病



被害葉※

特徴

- ◆主に露地栽培で発生する。
- ◆降雨により発生が増加する。
- ◆かびの一種で葉・茎・果実に感染し、病斑を生じる。

防除のポイント

- ◆摘葉し、ほ場内の風通しを良くする。
- ◆発病を確認したら、小黑点（柄子殻）が生じる前に発病部位を取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆発生を認めたら、ベンレート水和剤、スクレアフロアブルを散布する。
- ◆種子伝染するため、感染した株からの採種は行わない。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除のポイント

- ◆ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆露地栽培では、天敵昆虫の温存のため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
- ◆発生を認めたら、アファーム乳剤、ディアナSC、プレオフロアブル、モメントフロアブル、アグリメックなどを散布する。

きゅうり(施設抑制裁培)

ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)



幼虫*

特徴

- ◆施設抑制裁培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を寒冷紗（2mm目合）等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

防除のポイント

- ◆生長点を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期にグレースシア乳剤、ゼンターリ顆粒水和剤、アファーム乳剤などを散布して防除する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

きゅうり(施設抑制裁培)

ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ※

特徴

- ◆高温少雨で増えやすい。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル、プレオフロアブル、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。

あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)

コナガ



成虫※



幼虫※

特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆定植前かん注処理剤あるいは定植時施用粒剤と、本ぼでは異なる系統の薬剤を使用し、同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)



幼虫*

特徴

- ◆幼虫が芯葉を食害するため、株が芯止まりになる。
- ◆発生量が急増することがある。

防除のポイント

- ◆寒冷しゃ等の被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆セル成型育苗トレイに**プレバソフフロアブル5**（キャベツ、はくさい、ブロッコリー）、**ベリマークSC**（キャベツ、はくさい、ブロッコリー）などをかん注するか、**プリンス粒剤**（キャベツ、ブロッコリー）などを施用する。

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーなどでは定植前に、非結球あぶらな科葉菜類やかぶなどではは種前に、**ネビリュウ**や**オラクル粉剤**を土壌混和する。
- ◆土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。

野菜類・花き類全般

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

シロイチモジヨトウ

6月26日発表の防除情報「シロイチモジヨトウに注意！」をご確認ください。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/R2nd/boujyojyouhou/R0206shiroichi%20.pdf>

野菜類・花き類全般

ハスモンヨトウ



若齢幼虫

特徴

- ◆ 8月以降多く発生する。さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アディオン乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆类（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（さといも、ずいき、オクラ、花き類など）、プレバソンフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については
「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto.Lpdf>

オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、きくなど）などを散布する。

きく

白さび病



特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆薬剤散布は葉の裏を中心に行うと効果的である。
- ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める
- ◆発生を認めたら、トリフミン乳剤を散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病*

特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆花弁にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病 (TSWV、CSNV) を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤、グレーシア乳剤などを散布する。
- ◆花弁への被害を防ぐため、膜割れ（蕾から着色した花弁が見える前）前後の防除を徹底する。